

俱会一処

「俱会一処（俱會一處）」と刻まれているお墓をみたことはありませんか。阿弥陀

経に出てきます。できる限りその語の前後を載せます。

また舍利弗よ、極楽国土に生まれた人々は皆仏に成ることが出来る。その中には、迷いの世に還り、迷う人をすくおうとされる方がいる。その数は計り知れない。舍利弗よ、これを聞いた人々は、極楽浄土に生まletたいと願うがよい。なぜかと言え、極楽の人々と俱會一處

同じところで会えるからだ。舍利弗よ、その国に生まれるには、自分で積み上げる善では到底無理である。

舍利弗よ、念仏の教えを聞く人々は、阿弥陀仏が私の為になら、功徳を南無阿弥陀仏にこめられ、その念仏は仏の喚び声であったと、日にちに限らず、こころから戴くならば、その人の臨終において、

阿弥陀仏が多く、聖者と共に現れてくださる。その人がいよいよ命が尽きるとき、心穏やかに阿弥陀仏の極楽浄土に生まれることができる。舍利弗よ、私はこれらの利益があるから説いているのだ。

阿弥陀経の勉強をはじめの一步で行っています。是非。

当たり前なのに
反対は
有難し

お経

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

苦海

今年の大河ドラマの主役は紫式部です。娘が興味深く見えています。



藤原道長も登場します。地位も名誉も権力もすべて手に入れた人です。しかし、迷いの苦海を抜けることはできませんでした。我が娘を亡くし、自らも病に侵されてからは、阿弥陀仏のすくいをたよりにしました。浄土教が日本で大きく広がっていく時期です。

「苦海」は、漢字を見ているだけでも苦しい気がしますが、我々の生きている世界を苦しみの海と例えています。寄せては返しては返しては返し迷いを繰り返す、尽きることがありません。親鸞聖人は、苦海を生きる我々をすくう阿弥陀如来の慈悲を和讃にされました。

生死の苦海ほとりなし ひさしくしづめるわれらをば
弥陀弘誓のふねのみぞ のせてかならずわたしける
(ままならず繰り返す苦しみは、尽きることがありません。自らの力では、抜け出すことができない我々を、阿弥陀如来の

慈悲みの船だけが、乗させて必ずや悟りの極楽浄土へ渡させていただけるのです。)

